

柏原小 道徳科 指導の手引き



2020改訂

目次

- 1 授業づくりの視点・・・・・・・・P1
- 2 授業のプランニング・・・・・・・・P2-3
- 3 『柏原小道徳科授業プランニングシート』・・P4
- 4 授業のプロセス・・・・・・・・P5
- 5 指導方法の工夫・・・・・・・・P6-20
- 6 道徳の評価・・・・・・・・P21
- 7 道徳に関するデータ・・・・・・・・P22-27

1 授業づくりの視点

指導観を明確にする

価値について

児童の実態について

教材について

本時のねらいを設定



導入 主題に対する児童の興味や関心を高め、自己を見つめる動機付けを図る段階

展開 中心的な教材によって、児童一人一人がねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階

終末 ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、自己の課題を持ち、今後の発展につなぐ段階

2 授業のプランニング

ねらいの明確化

○授業をする前に、本時で扱う道徳的価値を理解し、指導する重点を決めよう。

【参考】

『小学校学習指導要領』「第3章 特別な教科道徳」

→ 道徳的価値を含む内容を短い文章で表現したもの

例 <指導の重点> 親切・思いやり

(低) …温かい心で接し、親切にする大切さ

(中) …思いやりの心を育てる

(高) …相手の立場に立った親切

児童の実態把握

○内容項目における児童の実態把握

<役立てよう>

- 授業の目標設定
- 指導の工夫の参考

<方法は…>

- アンケート
- 同じ内容項目の授業の記録を参考にするなど。

多様な方法で情報の収集に努めていきましょう。

授業づくりのヒントになります！！

目標の設定

○授業終了時の児童の姿をイメージする。

例「考えるべき価値について、自分の本音で話し、自分の考えをさらに深めることができる姿」

など。

○児童をゴールの姿に持っていくことにこだわりすぎると、児童を無理やりにでも、教師のイメージにもって行ってしまふことがある。これには注意！

児童は、教師の様子（考え）を敏感に察知し、忖度してしまう。

例「先生はこれを言ってほしいんでしょ？」

教材分析

○基本的には年間計画に載っている教材文を選択する。（扱う順番を変更したり、効果的な資料と入れ替えたりする場合には、学年で検討し校長の許可を得る。また、学年でそろえて行う。次年度へ向けた変更を行う。）

○教材文を一度読んでから、教師が何を感じたか考え、指導書を読む。

○教材文の利用の仕方について考える。

○主発問は何かを考える。

○主発問につながる問いを考える。

3 『柏原小道徳科授業プランニングシート』

1 シートのねらい

児童が主体的に考え議論する授業、道徳性を養う授業をデザインするために、「柏原小道徳科授業プランニングシート」を作成し、活用する。

2 本シートの期待する効果

- ・ 授業者が内容項目（道徳的価値）をしっかり理解し、ねらいがぶれない道徳展開ができる。
- ・ ねらいに迫る発問やそれを深めるための補助発問を考えることができる。
- ・ 授業の流れの中で、自分自身を見つめさせる場面を効果的に入れることができる。
- ・ 本シートを活用した授業づくりを全教員で行うことができる。

3 本シートの流れ

- ・ まず、内容項目（道徳的価値）を明確にし、その分析を行う。
- ・ 次に、内容項目（道徳的価値）に関わる児童の実態を把握する。
- ・ 教材をどう生かすか、ねらいを明確にするとともに、ねらいに迫る発問やそれを深めるための補助発問等を考える。
- ・ 中心発問の前後の発問を考える。
- ・ 最後に、導入と終末を検討する。

柏原小学校 道徳科授業プランニングシート 記入例

① 内容項目: 内閣府 (参 一 六) 選別・思いやり

② 教材名: 教科書 心と体のあそび

③ 道徳的価値の明確化: 思いやりとは・・・ 助け合いとは・・・

④ 児童の実態: 思いやりとは・・・ 助け合いとは・・・

⑤ ねらい: (A) 今まで学習の成果が表れていた「助け合い」と、その学習の成果が表れていない「助け合い」の行動を比較すること

⑥ 中心発問: 思いやりとは、助けたらいいことか？

⑦ 導入と終末: 導入: 思いやりとは、助けたらいいことか？ 終末: 思いやりとは、助けたらいいことか？

型：柏原小 道徳科授業プランニングシート

F S 柏原→教務部→研修→令和2年度→授業支援部の中に入っているの、活用してください。

※実際に作成したプランニングシートは、「授業支援部のフォルダ」に「作成したプランニングシート」というフォルダがあります。参考にしてください。

4 授業のプロセス

例

段階	学習活動	主な発問	指導上の留意点
導入	1. ねらいに関わる課題意識を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> • ~したことがありますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題を提示し、本時のねらいへの関心意欲を高め課題意識を持たせる。
展開前段	2. 教材「〇〇」を読んで、ねらいとする道徳的価値を自分と関わらせて考える。	<ul style="list-style-type: none"> • ▲▲は、△△のことをどう思ったでしょう。 • △△は、どんな考えで~したのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場面絵やキーワードを提示し教材の内容を把握しやすくする。 ○ワークシートを活用 ○ペアやグループ活動を取り入れ多様な考えに触れる。
展開後段	3. (捉えた道徳的価値に照らして) さらに深く自分を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> • 今日の学習や自分自身を振り返って、どんなことを感じましたか。 • △△と同じ経験はなかったか振り返りましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○写真やVTRなどを提示するなど▲▲体験活動をした時の気持ちを想像することで、自分の生活を振り返らせる。
終末	4. 本時のまとめをする。 5. 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> • 今日の学習や自分自身を振り返って、考えたことを書きましよう。 • 今後に生かせることは、ありますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のこれまでの生活と重ねて考えさせることで考えの深まりを自覚させ、自分の生き方につなげさせる。 ○本時のねらいとする道徳的価値への実践意欲を高めさせる。 ○ワークシートを活用して振り返りをさせる。

5 指導方法の工夫

1 学習課題の提示

- 教材の大まかな内容を紹介し、興味や関心を持たせ、学習課題と児童が出会う場を必然的なものにする。
- アンケート結果を示すなど、ねらいに関わる問題意識を持たせてから学習課題を提示する。
- 自分ひとりでは解決が難しい学習課題を設定する。
- 児童が学習課題を解決するまでの過程の大切さを実感できるようにする。

2 教材を提示する工夫

- 大型絵や紙芝居、影絵
- 黒板を舞台のようにして提示する方法
- 視聴覚機器の活用
- 実物や写真の提示
- テレビや電子黒板を生かす方法
- パネルシアター
- 地域講師等の語り聞かせ
- 教師の演技による提示

3 発問の工夫

- 教師のしゃべりすぎをとことん控える。
- 主人公の気持ちを問うだけにしない。・・・主人公への共感を通して、生き方を考える。
- 中心発問（授業のねらいに深く関わる中心的な発問）をまず考える。いろいろな考えが出るところが中心発問になる。中心発問を絞ることで、多様な考えが引き出される。
・・・中心発問に対して15分確保できるよとよい。
- 中心発問を生かすために、その前後の発問（基本発問）を考え、全体を一体的に捉えるようにする。
- 考える必然性や切実感があり、心が揺さぶられる発問・自由な思考を促す発問・個性的な考えが出される発問・児童のこだわりや問題意識が生かされ、生み出される発問・物事を多面的・多角的に考えられる発問

・・・一問一答の質問に偏らないことが大切

4 書く活動の工夫

- ・低中高で、発達段階に応じたワークシートにする。
 - ・・・低学年：主人公の絵に吹き出しを付けた。
 - ・・・書かせる活動は1時間に1回程度が望ましい。
 - ・・・今日の学習の振り返りを書く。
(自分がこれから学習したことをどう生かしていきたいか書く。)
- ・必要な時間を確保する。
- ・4年生から、自分の考えを整理して書くフリーシートの活用○。
- ・ワークシートが表になっていれば振り返りがしやすい。(高学年向き)

・・・次頁、図①参照

<表のワークシート例>

月 日	主題名	教材名	感じたこと・考えたこと・学んだこと	〇〇メーター(〇)
7月26日	やさしい人って いいな	やさしい人大さ くせん	6年生に「ありがとう。たすかったわ。」と 言われたとき、「わたし」はどんな気持ちだ ったでしょう。	5
				4
				3
			一児童が書くスペースー	2
				1
月 日	〇〇〇〇	〇〇〇〇		

図①

5 考え、議論するための工夫

◎目指す「考え、議論する」姿

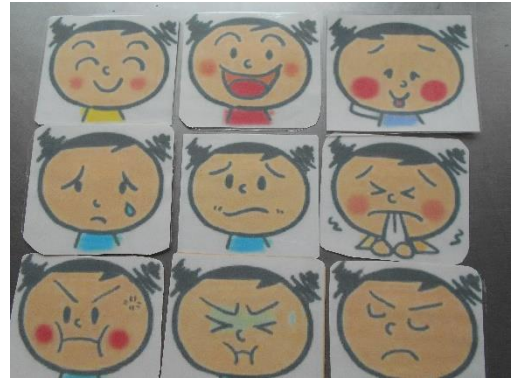
低学年	自分の考えをもち、相手に伝える。
中学年	相手の考え方と自分の考え方を比べて考える。
高学年	自分の中の本音と建前を比べ、 自分にとって価値のあるものは何かを考える。

(1) 自分の考えを持たせるための手立て

どの学年においても、まずは自分の考えをしっかりと持たせるということが大切になってくる。特に、低学年や配慮を要する児童に対しては自分の思いを表現するための手立てや、教材文の内容に入り込むことで自分の思いを表現させる手立てをとることが考えられる。

①表情カード

自分の思いを表現することが苦手な児童は、表情カードを使い、一番合うカードを選ばせる活動もよい。その際、どうしてこの表情カードを選んだのかを丁寧に聞き取りたい。



②登場人物になりきるための工夫

- 魔法をかける（なりきらせる）

低学年の子供たちには、「先生が今から魔法をかけるよ！〇〇になーれ！」などの言葉も有効。

魔法のステッキを用意したり、変身パウダーをかけたり、時には教師が演技することも。



- お面などの小道具を使ったロールプレイ

体験的な活動を行う際、お面や小道具を用意すると児童は場面に入り込み、登場人物になりきって思いを発言することが出来る。ロールプレイをしている児童の様子や表情が児童同士で見られる工夫も必要。



- 名前カード



お面をかぶることに抵抗がある高学年には、役名を書いた名前カードを付けさせるだけでも。（写真は絵も描かれている。）準備も簡単なので、様々な学年で活用できる。

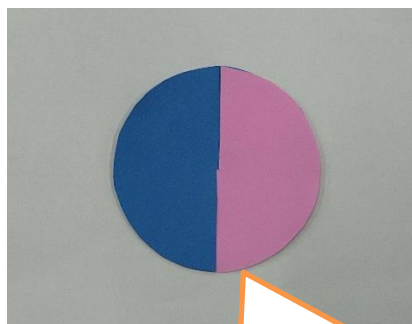
(2) それぞれの意見の可視化

自分の考えを持ったあと、その考えをお互いに見えるように可視化すると、お互いの考えの類似点や相違点について話し合いが深まっていく。

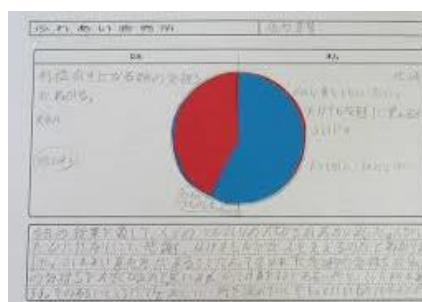
①心情円盤

主に葛藤教材において、正の感情と負の感情がどの程度の割合で心の中にあるかを示すもの。その際、その発問の前に負の感情にどっぷりと浸らせるとそのあとの議論が活発になる。

*心情円盤の色は赤と青に限らない。



裏表で違う色の円を貼り合わせたものを2枚用意して切込みを入れて組み合わせると、前から見ても子供側から見ても同じ割合になります！



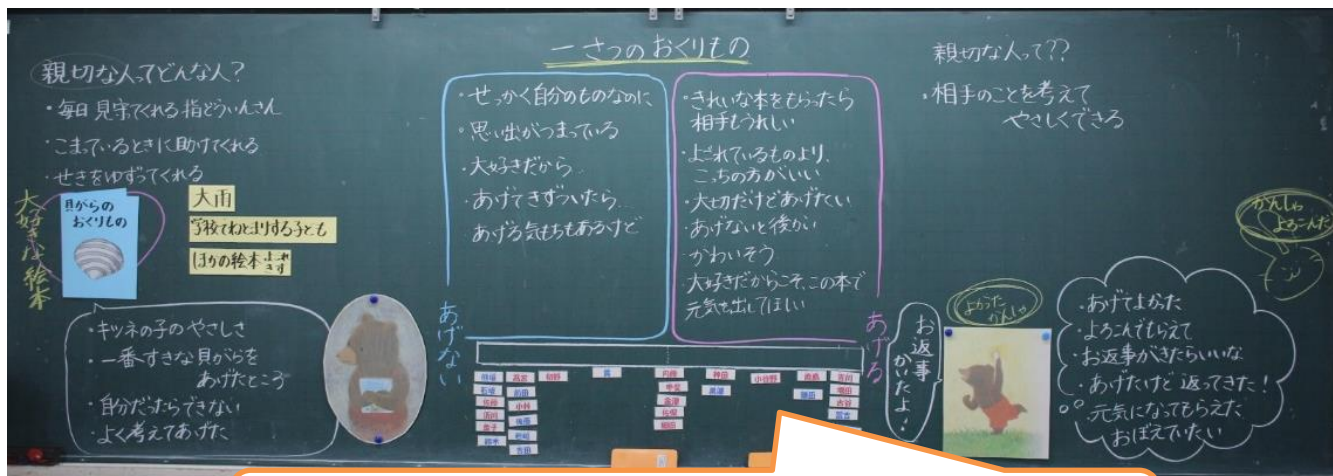
ワークシートに心情円盤を書きこませることもできます。話し合う前と後で2つ書ける円を作っておくと、心情の変化を見と

②心のものさし

葛藤場面において、ネームプレートにて黒板上に自分の意思表示をするもの。全体の分布と、誰がどんな思いをもっているかが教員も児童も分かりやすい。また、微妙な位置の違いに隠れた思いを表現させると価値についての考えの深まりにつながる。

葛藤場面のはじめと友達と話し合った後とで変容が見られると思うので、後段で考えが変化しプレートを動かしたい児童がいれば動かしていいよとするとよい。プレートを動かした児童に動かした理由を問うと話し合いが深まる。

(前と後を写真で一枚撮っておくと、評価につながる。)



黒板に一本線を引くだけで簡単に使用できる。児童が張り替えられるように、黒板中央か下方がよい。

③学年帽子の活用

道具を用意しなくても学年帽子を使って簡単に意思表示ができる。表と裏で反対意見とするが、ウルトラマンかぶりでもよいとすると、中間も表せる。心情円盤等と比べると、微妙なラインは表せないことが欠点。

- * 葛藤場面ではなくても、2者もしくは3者に分かれて考えさせたいときに、誰がどの立場をとっているかのサインにも使える。



④筆箱や消しゴムなど身の回りの物の活用

その他、筆箱や消しゴムなど、身の回りのものでも意思表示が行える。机の横幅を心のものさしのようにとらえ、右側と左側で立場を示させる。

- * 手遊びにならないように、ルール決めが必要。

(3) 発問と切り返し

① 発問の4区分

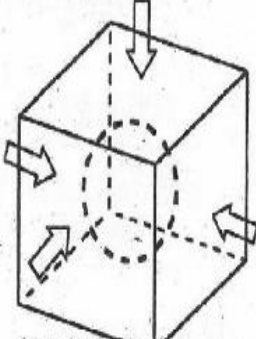
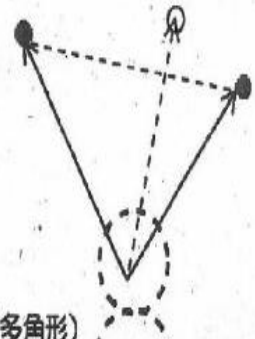
授業を組み立てるにあたり、事前に発問を練っておくことは授業づくりにおいてとても大切。今までは登場人物の心情に寄り添う発問を中心に構成された授業が多かったが、より価値に迫るためにも、『発問の4区分』を上手に組み合わせて発問を用意したい。その際、C（投影的な発問）やD（批判的な発問）の発問を使うことが出来ると、自分自身の気持ちや考え明らかにする多角的思考へ繋がり、より価値に迫ることが出来ると言われている。

「多面的・多角的」な発想に立つ発問を生かす

4 私たちの「多面的・多角的」な発想が、授業を柔軟にする

(1) 「多面的思考」と「多角的思考」…分析的思考と選択的思考の両面を生かし合う

※ 多様なとらえ方や考え方があってよい。

<p>多面的思考…主として「みとめあい」</p> <p>◇主に、一つのことがら(道徳的価値など)について、<u>見る立場を変えたり、多くの人の見方を生かしたりして、対比させ合い、深め、掘り下げること。</u></p>  <p>(多面体)</p>	<p>多角的思考…主として「みがきあい」 <i>いろいろの角で</i></p> <p>◇主に、一つのことがら(道徳的価値など)について、自己の考え方の主張や生き方の選択肢について、他の人と対立し議論し合うなどして、より明確にすること。</p>  <p>(多角形)</p>
---	--

主に、分析的思考 ⇔ 主に、**選択的思考** *すいせんしこう*

・選択的思考から分析的思考へ ・分析的思考から選択的思考へ ・往復する形 ほか

(2) 「場面発問」と「テーマ発問」……発問の「大きさ」や「立ち位置」を意識する *このふたつ*

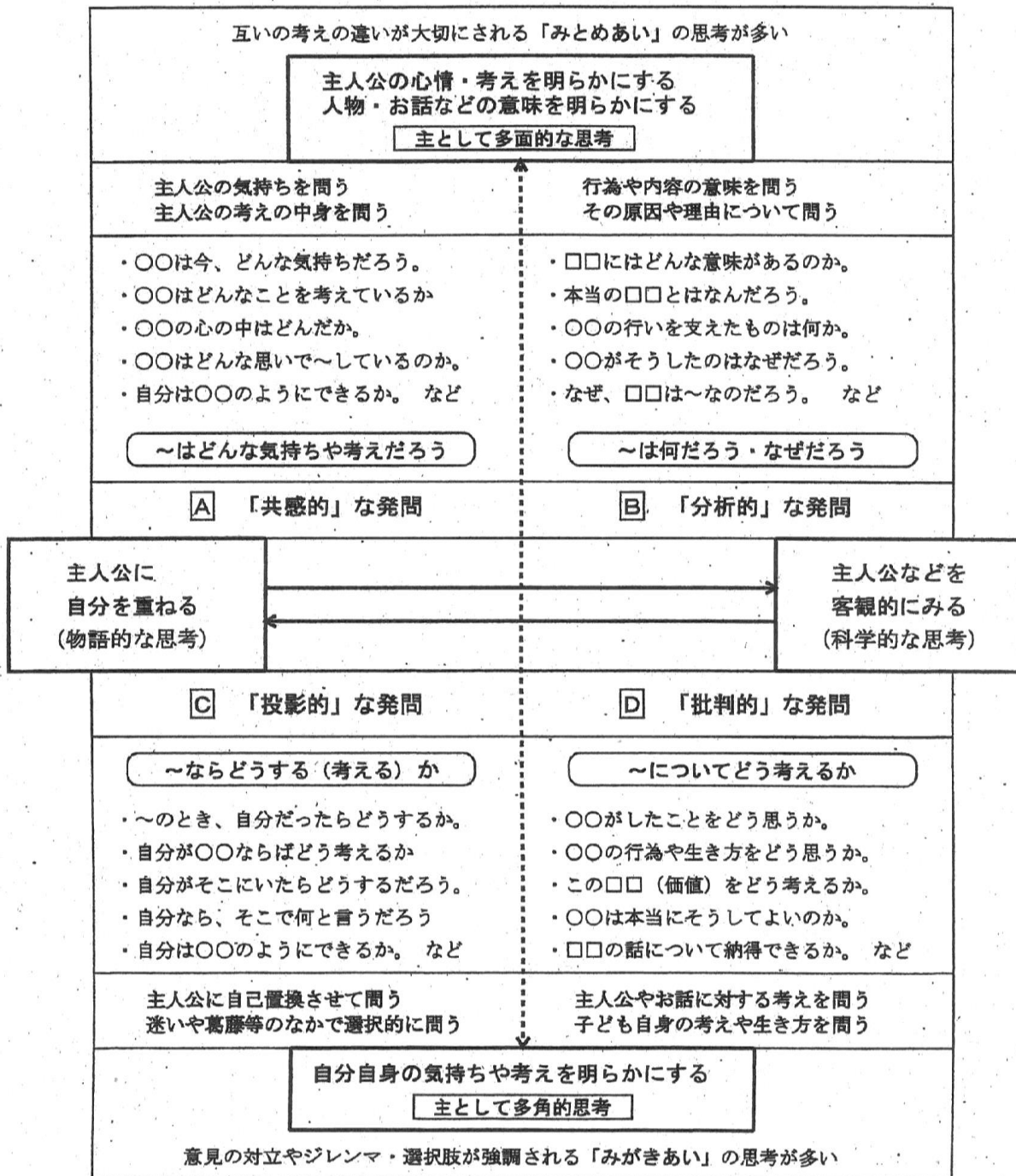
「場面発問」	「テーマ発問」
<p>教材中のある場面に即して、そこでの登場人物の心情や判断、行為の理由などを問うたり気づきを明らかにしたりする発問。</p>	<p>教材のもつ主題やテーマそのものにかかわって、それを掘り下げたり、追求したりする発問。「主題発問」ともいえる。</p>
<p>「安全・安心運転」型の授業が多くなる</p>	<p>「冒険運転」型の授業が多くなる</p>

発問を柔軟に発想するために生かしてみよう

発問の立ち位置・4区分と 多面的・多角的思考（見方の例）

NAGATA

※ 以下は、様々な発問のバリエーションの立ち位置の区分を示した見方の例です。
 発問を柔軟に広く発想するための参考図として生かすことができます。



〔横軸…方法・距離感、縦軸…意図・ねらい〕 〔〇〇：人物等、□□：お話・価値・内容等〕

※ 参考：永田「新・道徳授業論（連載）」（明治図書『道徳教育』誌No.692）p.72より

②有効な繰り返し

議論を深め、様々な児童の考えを引き出したり、より価値に迫ったりするためには、教師の繰り返しが必要。自分の中に様々な繰り返しの言葉を用意しておく、授業の展開や児童の反応などによって使い分けていけるとよい。・・・児童がドキッとする繰り返しの発問をする。

繰り返し・発問例

【主人公の心情に迫るための繰り返し】

- 奥の奥にある本当の気持ちって？
- 主人公は何で迷っているのかな。
- もし…だったらどうなったのかな。

【意見を広げるための繰り返し】

- それってどうして？なぜ？
- Aさんの考えどう思う？
- Aさんの考えに少しつけたしたい人は？
- 出てきた以外の考えがある人？
- 今までの考えと違うことを考えた人はいる？

【自分事として考えさせるための繰り返し】

- 自分だったら？
- 自分がその場にいたらどうする？
- 本当にそうできる？不安はない？
- みんなだったら同じようにできる？できないとしたらどうして？
するために必要なことは？
- これからの自分にいかせそうなことはある？

【価値にせまるための繰り返し】

- よりよい生き方っていう視点で考えるとどうかな。
- これからどんな選択をしていけばいいかな。
- この話から何を学んだ？
- この主人公の生き方をどう思う？
- （価値）はなぜ大切？（価値）を大切にするとどうということなんだろう。

児童同士の話し合いの際に、児童自身が互いに切り返しの言葉を交えながら話せると、より議論が深まっていく。話し合いの際に、次のような切り返しの言葉を紹介することも考えられる。

低学年

- 私の考えを発表します。
- 私は〇〇と考えました。()さんはどうですか。
- もし自分だったらどうかな。

中学年

- どうしてそう考えたの。
- 私たちの考えの中で、似ている部分や違う部分はあるかな。
- 私たちは、～という考えは同じで、～という部分は違うね。
- 違う考え方はできるかな。
- 〇〇さんの考えをどう思いますか。

高学年

- 違う見方はないかな。
- よりよい生き方という視点で考えると、どの考えがいいのかな。
- 他の立場の考えはどうだろう。
- こういうこと、学校生活の中でなかったかな。

(4) 話し合い方の工夫

① グループニングのバリエーション

ペア

まずは、2人で伝え合う活動を取り入れると、安心して考えを発することが出来る。

隣同士の話し合いはよくすると思いますが、前後での話し合いをするのもよい。縦列ごとに立場を変えて考えさせると、隣同士は立場が違う同士になる。

話し合うときは体を横向きにし、向かい合って話す。終わったら、体を前向きにする、などペアでの話が終わったサインを共通理解しておく、教員側も全体把握や話し合いが上手くいっていないグループに入りやすい。



グループ

生活班や、意図的に組んだグループでの話し合いを取り入れると、自分以外の様々な考えに触れることができ、多面的・多角的な考え方に発展することが期待できる。

意図的に、同じ立場から考える児童を集めて話し合わせることで、同じ立場であっても様々な面から物事を考えられる機会となる。違う立場から考える児童を集めて話し合わせても、違う考えに多く触れることになり、価値について様々な角度から考える機会となる。

ジグソー法

偏った知識だけでは解決できない問題を解くのにふさわしく、いろいろな視点から答えを導き出すことから、協調学習とも言われているそうです。

道徳で活用する際には、

グループを違う立場で話し合う。(例：1・2班はクマくんの気持ち、3・4班はウサギさんの気持ち、5・6班はキツネさんの気持ち…など)

違うグループで話し合った児童同士が集まり、意見交換をする。(クマ・ウサギ・キツネの気持ちを考えた3人で集まってグループの話し合いを報告する。)

時間があれば…

元のグループに戻り、意見交換をする。

*多面的多角的に物事を考えるうえで効果的な価値や教材文もある。

低学年：教師対児童で切り返しの発問を行い、それに慣れていく。

中学年：子供同士のやりとりの中で切り返しの発問

②机の配置

机の配置についても、児童の実態や発達段階、授業内容や授業の展開などによって工夫することができる。以下に紹介する工夫をいくつか組み合わせ、場面ごとに形を変えることも考えられる。

・前向き方

全員が前を向いた状態。机の操作がなく、通常通り授業を受けることが出来る。全員が黒板を向いているので、授業に集中して考えられる。

・班隊形

3～4人(人数は適宜)の小グループを作る形。数人で話し合う際に、顔を見合って話し合うことが出来る。



・コの字

内側を大きく空け、児童同士が向き合っている形。お互いの考えを、顔を見て聞くことができるように、**1列目と2列目をずらす**。また、真ん中のスペースで役割演技をしたり、真ん中のスペースに児童を集めて最後の説話をしたりと、場の工夫をすることが出来る。机を動かす必要がある。

・簡易型コの字

後列は前を向いたまま、前方左側の席の児童と前方右側の児童がそれぞれ机を内向きにする形。短時間で形を変えることが出来る。また、児童同士の距離が近く、話しやすい。



・シアター型

黒板の前に椅子のみ（もしくは体のみ）で集まらせて授業を進める形。教師と児童の距離、児童同士の距離が縮まり、より話し合いが深まることが期待できる。

机を両端や後ろに並べて置き、自分を振り返って書く活動の際には机に戻して落ち着いて書く時間を取れる様にするなどの工夫も考えられる。

6 板書を生かす工夫

1 板書づくりのポイント

- ・ 子どもたちの思考を広げる手助けをするサポートとなるようにする。
- ・ テーマを掲げ、図や記号、色チョークを駆使しながら板書をつくりあげる。
- ・ 「縦書きの右から左」にこだわらず、横書きであったり、真ん中から始めて行ったり来たりするような自由な発想で板書をつくりあげる意識を大切にする。

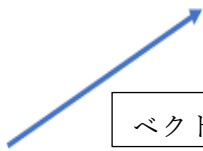
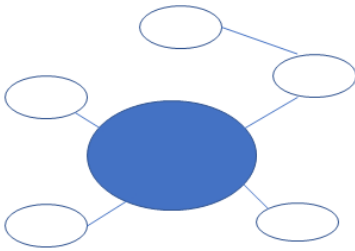
- ・ めあて㊦、ふりかえり㊧（アイコン活用）
- ・ マイナス思考は㊨、主題につながるような言葉は㊩や㊪
- ・ なるべく見えやすい色（白・黄）を使う。（UD）
- ・ 心情を表す言葉に♡を付ける。クラスの記号を決める。
- ・ 心情円盤、心情曲線

2 板書の図式化

共通項を探す

する

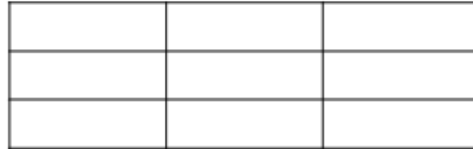
マインド・マップ



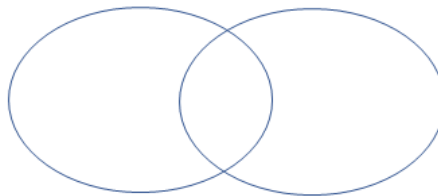
ベクトル

<可視化で整理>

マトリックス

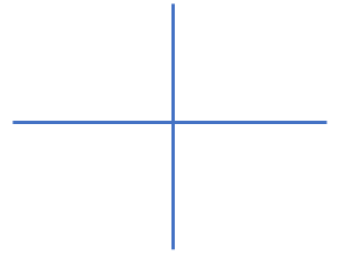


ベン図

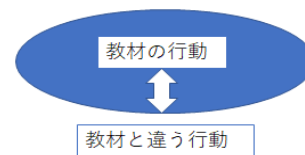
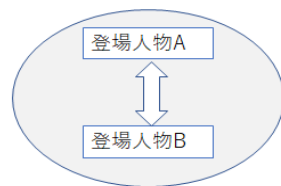
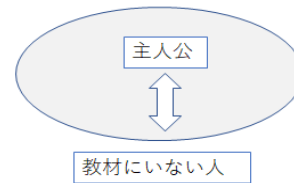
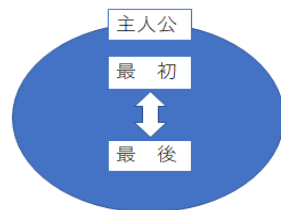


分類整理

座標軸



<比較>

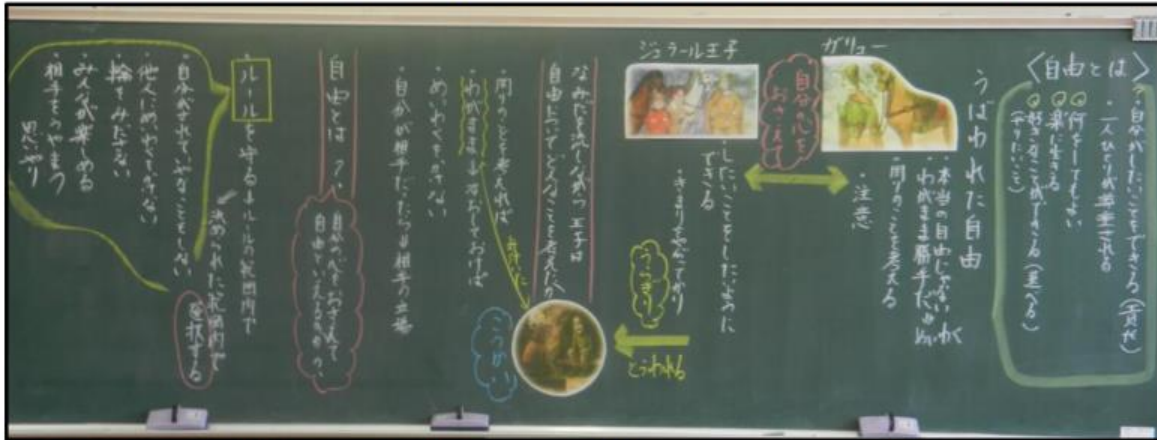


3 板書の「シメ」

- 「シメ」には授業の学習内容を再確認し、授業を終える役割と、子供自身の成長の記録を押さえる役割がある。
- 価値観を子供たちに押し付けるのではなく、自然にシメる方向を意識しながら授業に臨む。

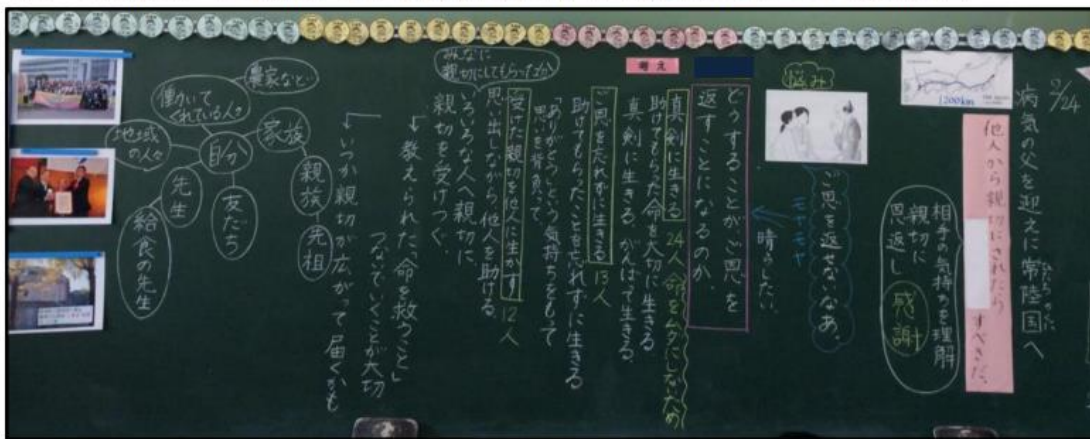
4 板書の例

A 初めと終わりで、「自由」の捉え方の違いが見える板書



『うばわれた自由』文部科学省 6年「自由と責任」 別府市教育委員会 指導主事 田中 修 氏

B 「感謝」に関わる考え方の違いを類型化している板書



『病気の父を迎えに常陸国へ』大分県教育委員会 6年「感謝」 臼杵市立福良ヶ丘小学校 教諭 長谷川 千尋 氏

C 人間のもつ弱さと強さ・気高さを対比的に位置づけた板書

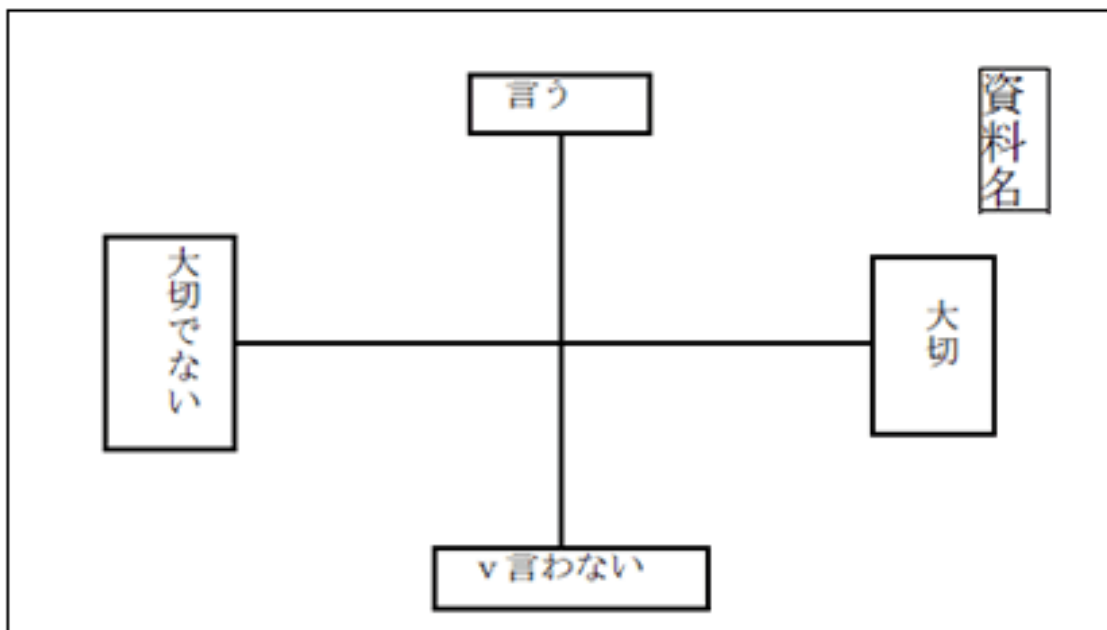


『真海のチャレンジ』文科省 6年「よりよく生きる喜び」 国東市立国東小学校 教諭 安部 詠子 氏

D 葛藤を中心とした板書



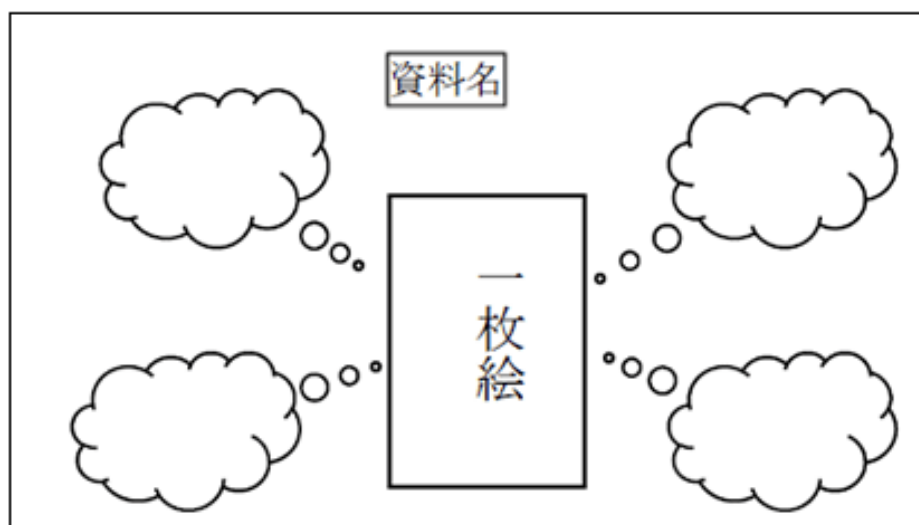
E 4分割で書き分けた板書



F 上下で対比させた板書



G 吹き出しを使った板書



7 説話の工夫

- 教師の道徳的体験談を話す。(効果的だと思われるものだけ)
- 紙芝居、音楽、紙人形などの活用。
- 本の一節やことわざなどに教師のコメントを加えて紹介。
- 長い教材は、前後を簡単に説明し、ポイントを絞って読む。

6 道徳の評価

- ① 道徳の授業における様子について記述する。
→授業中の様子のみ。
- ② 道徳性を安易に評価しない。
→「が育ってきた。」「高まっている。」「心情が育った。」という表現は×
- ③ 学習活動に着目して評価する。
→「多面的・多角的な見方へと発展しているか」「自分自身との関わりで深めているか」
- ④ 大きくくりなまとまりを踏まえて評価する。

あゆみの評価について 前半、後半部分に分けて行う。

前半：学期ごとの道徳の時間全体において共通して言える抽象的な内容。

例○価値について様々な立場から考えられるようになっています。

○登場人物の立場や気持ちに寄り添い、自分の経験と照らし合わせて考えたことを発表できるようになりました。

後半：前半の様子が伝わるような具体的な様子。

例○決まりについて考える授業では、主人公のことだけでなく、他の人の気持ちまで考え、自分が公共物を使う際には次の人のために早く返したいと発表しました。

○友達の考えを聞くことで自分の考えを深める様子がうかがえました。

授業の様子やワークシートの記述から、児童たちの様子を見取り、評価する。

7 道徳に関するデータ

1 板書の写真

FS 狭山→20 教務部→240 研修→11 校内研修→
令和2年度（道徳）→環境整備部→学級掲示版
（30年度・31年度の分も全学年分ある）

2 指導案

FS 狭山→20 教務部→240 研修→11 校内研修→
令和2年度（道徳）→指導案
（30年度・31年度の分もデータあり）

3 ワークシート

FS 狭山→20 教務部→240 研修→11 校内研修→
令和2年度（道徳）→調査研究部→ワークシートの提案
（31年度の分のデータもあり）

4 社会科資料室にある道徳資料

教材名	内 容				
	場面絵	短冊	登場人物の顔 揭示物	手描きの場面絵	他
1 年 生					
こころはっぱ		○	○		葉っぱカード
二わのことり		○		○	
はなおばあちゃんがわらった	○		○		
ぼくのしごと	○		○		
こぐまのらっぱ	○	○	○		
ええところ	○	○	○		首からかける名前カード
頑張って (彩の国の道徳)	○	○	○		
はしの上のおおかみ	○	○			お面セット
あのね	○		○		
どんぐり	○	○	○		指導案
かぼちゃのつる	○	○	○	○	お面 セットが3クラス分有

教材名	内 容				
	場面 絵	短 冊	登場 人物 の顔 揭示物	手 描 き の 場 面 絵	他
2 年 生					
森のともだち	○	○	○	○	お面セット
かっぱわくわく	○	○	○		お面セット
ともだちだものね	○	○			
くまくんのたからもの	○	○	○		どんぐり入りポシェット
かむかむメニュー	○				
ゆきひょうのライナ	○	○	○		
学級園のさつまいも	○				
だって、おにいちゃんだもん	○	○			
3 年 生					
一輪車にのれたよ	○	○	○		ワークシート
たまちゃん大すき	○	○		○	指導案 ワークシート
じゃがいもの歌					ワークシート
黄色いかさ	○	○	○		指導案 ワークシート

教材名	内 容				
	場面絵	短冊	登場人物の顔 掲示物	手描きの場面絵	他
3 年 生					
いいち、にいいち、 いいち、にいいち	○	○			指導案 ワークシート
ろくべえとちよ	○				
4 年 生					
うめのき村の4人兄弟	○	○			ワークシート
ほくらだってオーケストラ	○	○			ワークシート 2セット
情報モラル教材	○	○			情報モラルについての掲示物
花さき山	○	○			指導案
大きな絵葉書	○	○			ワークシート
ありがとうの言葉	○	○			ワークシート
ひびが入った水筒	○	○			
ドッジボール	○	○			ワークシート 教材文
ポロといっしょ	○	○			
お母さんの請求書	○	○			請求書

教材名	内 容				
	場面絵	短冊	登場人物の顔 揭示物	手描きの場面絵	他
5 年 生					
同じ空の下で	○	○			指導案
星野君の二塁打	○				ワークシート
心のレシーブ	○	○			
くずれ落ちた段ボール箱	○	○			
残った仕事	○	○			
製茶機械の父	○	○	○		
流行おくれ	○	○			指導案
かれてしまったヒマワリ	○	○			
6 年 生					
江戸しぐさ	○				
自由に使うからには	○	○			指導案
光る歩道 (彩の国の道徳)	○	○			板書計画
ほくの学校を一番に (彩の国の道徳)	○	○			

教材名	内 容				
	場面絵	短冊	登場人物の顔 揭示物	手描きの場面絵	他
6 年 生					
きくさんのなみだ (彩の国の道徳)	○	○			
心に通じたどうぞのひとこと	○	○			
車いすでの経験から	○	○			ワークシート
ことばのおくりもの			○		
愛華さんからのメッセージ	○	○			環境についての写真 ワークシート

※今年度新しく作成した短冊やお面などは、道徳場面絵を入れるファイルに場面絵と一緒にしておいてください。

道徳のデータは、それぞれサーバーに格納しましょう。

データをアレンジしてよりよい道徳の授業をつくっていきましょう。

引用・参考文献

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」2017
特別の教科 道徳編
- ・草津市教育委員会「道徳科の授業改善 指導の手引き」2019
- ・柏原小学校「道徳通信」2019
- ・東京学芸大学 永田繁雄教授 講演会資料2018
- ・明治図書「加藤宣行の道徳授業 考え、議論する道徳に変える発問&板書の鉄則 45」2018
- ・東京Eネット「道徳授業、こうすればできる！」
- ・大分県教育委員会「第5賞 道徳科の指導法の工夫」

指導者

2019年度

富士見市立みずほ台小学校 鈴木孝雄教頭

2020年度

ふじみ野市立西小学校 鈴木孝雄教頭

